

東日本大震災復興関係

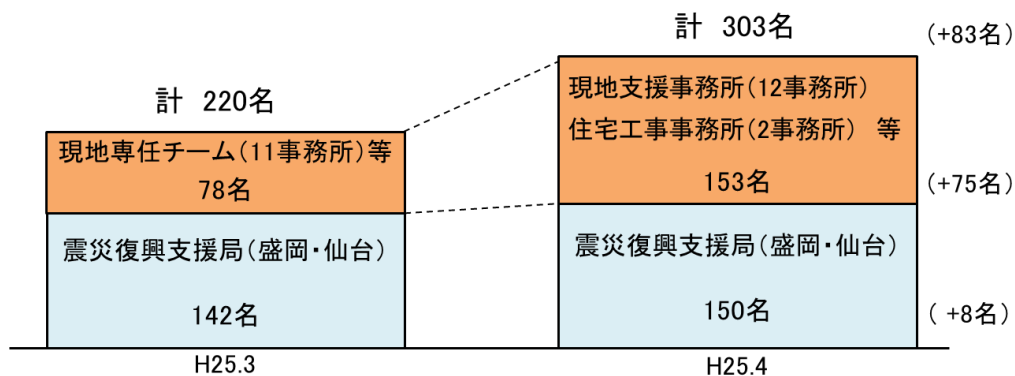
震災復興支援体制の強化について

URは、復興の一層の加速化のため、平成 25 年 4 月 1 日より現地復興支援体制を 303 名 (+83 名) に強化し、18 の被災市町村からの委託・要請に基づく復興市街地整備事業と災害公営住宅の建設を進めていきます。

また、CM方式の工事発注等、民間事業者と協力して、効率的に外部のマンパワーを活用し、スピードアップに取り組みます。

1 復興加速化のための現地復興支援体制の強化（平成 25 年 4 月 1 日）

- ・岩手、宮城、福島の 3 県における現地復興支援体制 303 名 (+83 名) に強化
- ・特に、現地復興支援事務所（12 事務所）等を 153 名 (+75 名) に体制強化



2 上記に加え、平成 26 年度（ピーク時）に向け効率的に外部のマンパワーを活用

① CM方式の工事発注

- ・工事施工のマネジメント業務に民間の人材・ノウハウを活用しスピードアップ。
- ・契約済・契約手続中の 6 件(9 地区)に加え、平成 25 年度に 4 件(6 地区)程度の工事で導入予定。
- ・CM方式の導入（10 件・15 地区想定）により、約 75 名分相当の発注者業務を外部化し、マンパワー確保の予定。

② 民間人材の常駐支援

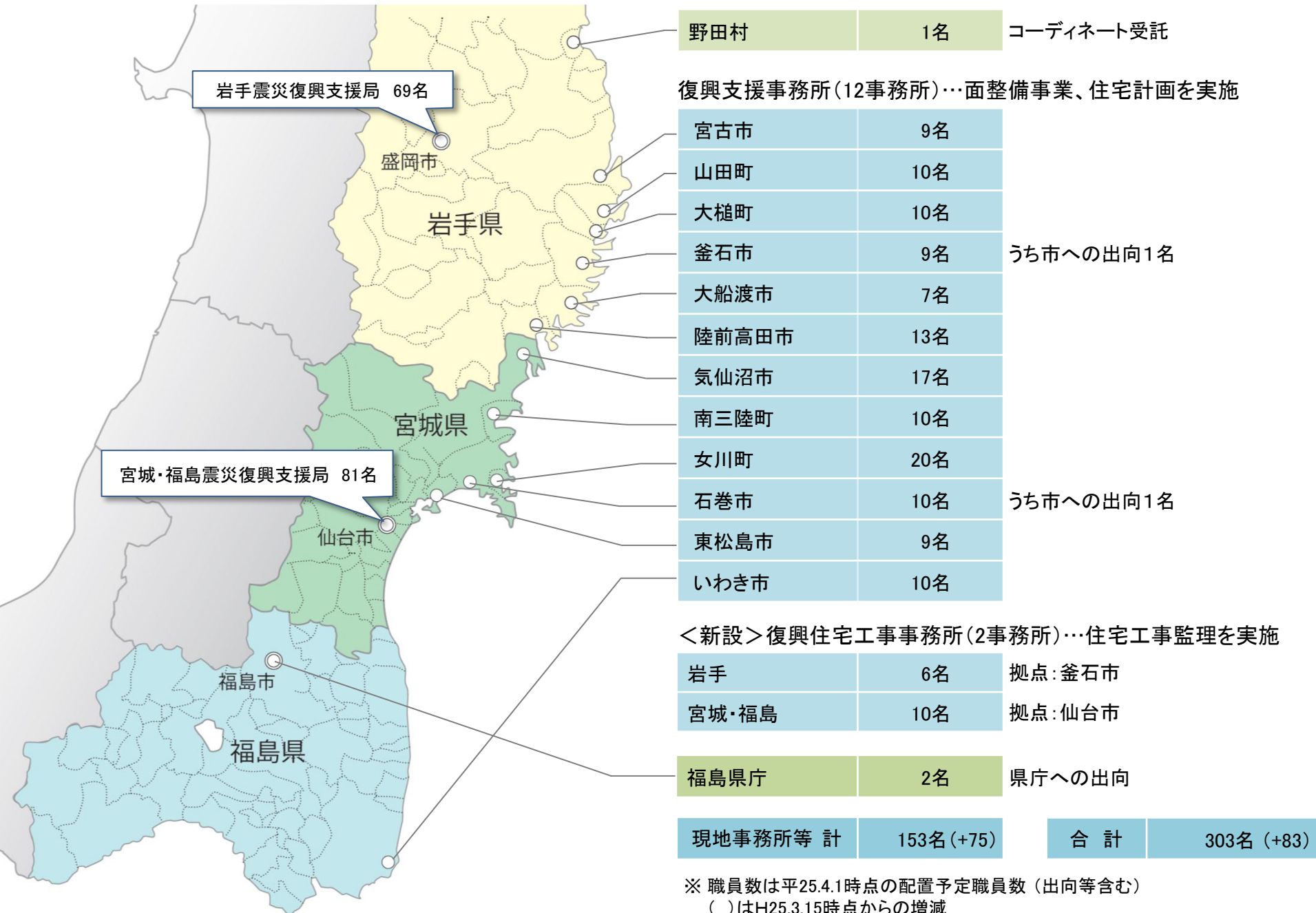
- ・現地復興支援事務所等に常駐し、権利者調整等を支援する区画整理、補償、工事調整等のスキルを有する民間人材を 4 月下旬から順次配置予定。
- ・平成 25 年度中に約 90 名分相当の支援業務を発注し、マンパワー確保の予定。

○ お問い合わせは下記へお願いします。

震災復興支援室支援調整第 1 チーム 電話 0 4 5 (6 5 0) 0 8 7 6

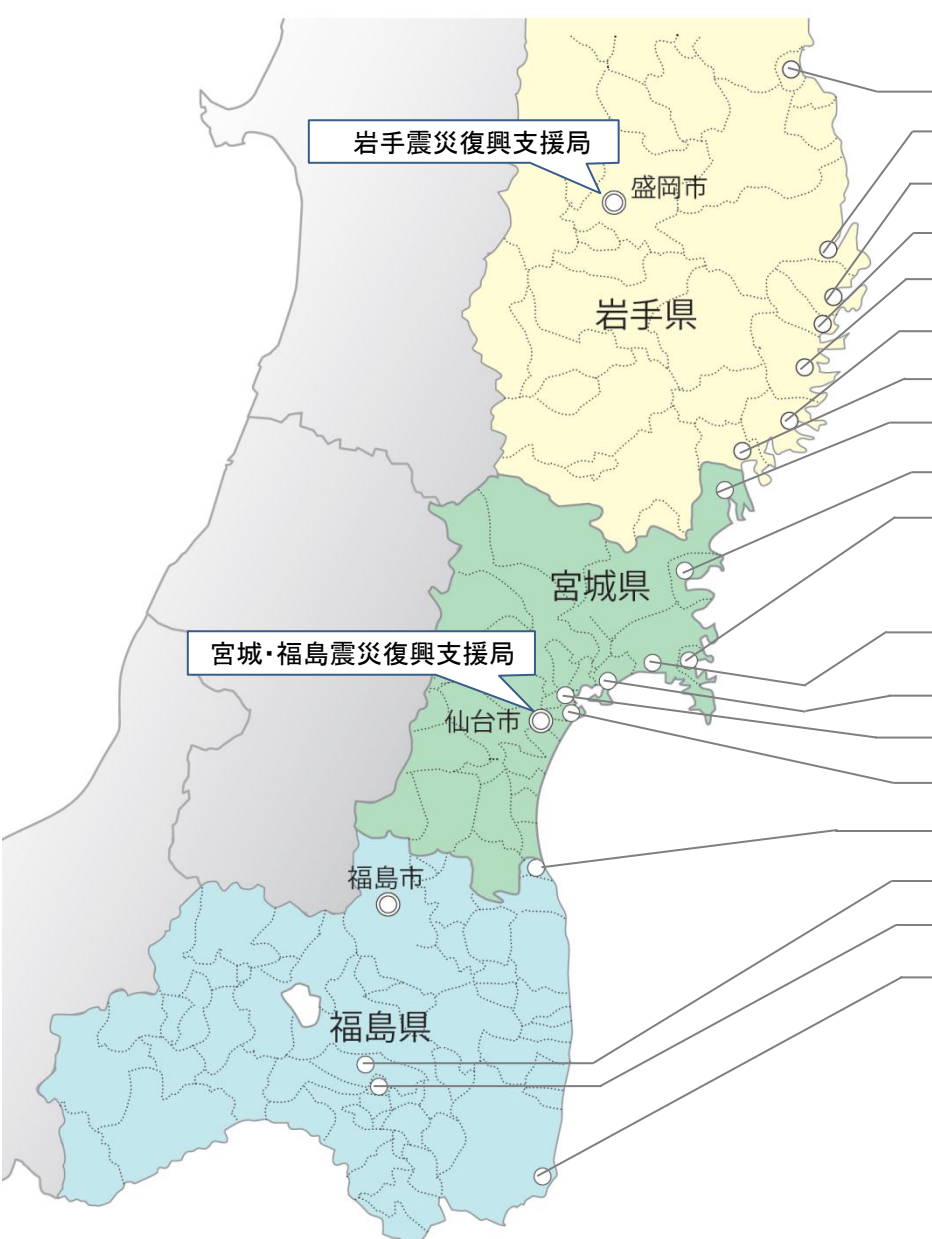
カスタマーコミュニケーション室広報チーム 電話 0 4 5 (6 5 0) 0 8 8 7

(参考1) 平成25年4月のURの現地支援体制(予定)



(参考2) URの支援地区一覧 平成25年3月15日時点

平成25年度は全ての面整備地区で着工し、6地区・365戸の災害公営住宅で入居開始。



市町村	復興市街地整備(面整備)	災害公営住宅整備
野田村	城内(事業コーディネート)	-
宮古市	田老、鍬ヶ崎	-
山田町	大沢、山田、織笠	-
大槌町	町方	大ケ口、屋敷前 、大ケ口二丁目、柁内
釜石市	片岸、鶴住居、花露辺	花露辺
大船渡市	大船渡駅周辺	宇津野沢、赤沢、上山、平林
陸前高田市	高田、今泉	下和野、水上
気仙沼市	鹿折、南気仙沼	南郷、四反田、鹿折、南気仙沼
南三陸町	志津川	入谷桜沢、歌津名足
女川町	中心部、離半島部	女川町民陸上競技場跡地
石巻市	新門脇	大街道西二丁目、中央一丁目、大街道北二丁目、中里一丁目、駅前北通り一丁目、泉町四丁目
東松島市	野蒜 、東矢本	東矢本
塩竈市	-	伊保石 、錦町
多賀城市	-	桜木
新地町	-	愛宕東
須賀川市	八幡町(再開発)	-
鏡石町	(計画コーディネート)	-
いわき市	豊間、薄磯	-
計	24地区	29地区・2,133戸

面整備地区着工時期		災害公営住宅入居時期	
着工済	5地区	平25予定	6地区・365戸
平25予定	19地区	平26以降	23地区・1,753戸

※ 建設にあたり要請戸数が変更となる場合がある。

(参考3)

1 CM方式によるURの工事発注予定

(1)発注済 3件 (5地区)

市町村	地区名	契約時期
女川町	中心部・離半島部	H24. 10. 19
東松島市	野蒜	H24. 11. 2
陸前高田市	高田・今泉	H24. 12. 10

(2)発注手続中 3件 (4地区)

市町村	地区名	契約予定時期
山田町	織笠・山田	H25. 4 月上旬
宮古市	田老	H25. 5 下旬
大槌町	町方	H25. 5 下旬

(3)このほか、平成25年度中に4件(6地区)程度の工事で導入予定

合計 10件 (15地区) の予定

2 CM方式の導入効果

(1)スピードアップ

- ①段階的な工事を一括り化し、契約手続を簡素化し期間短縮
- ②コスト&フィー方式で資材高騰等の受注者リスク軽減
(入札参加を促進し、入札不調を未然防止)
- ③職人・資材・重機の見通しを早期に立て、全国から計画的に確保
- ④民間ノウハウ活用による工期短縮(大量土砂搬出等)

※野蒜地区では、最大1年半の工期短縮

(2)オーブンブック方式により、透明性と地元参入を確保 (URが審査)

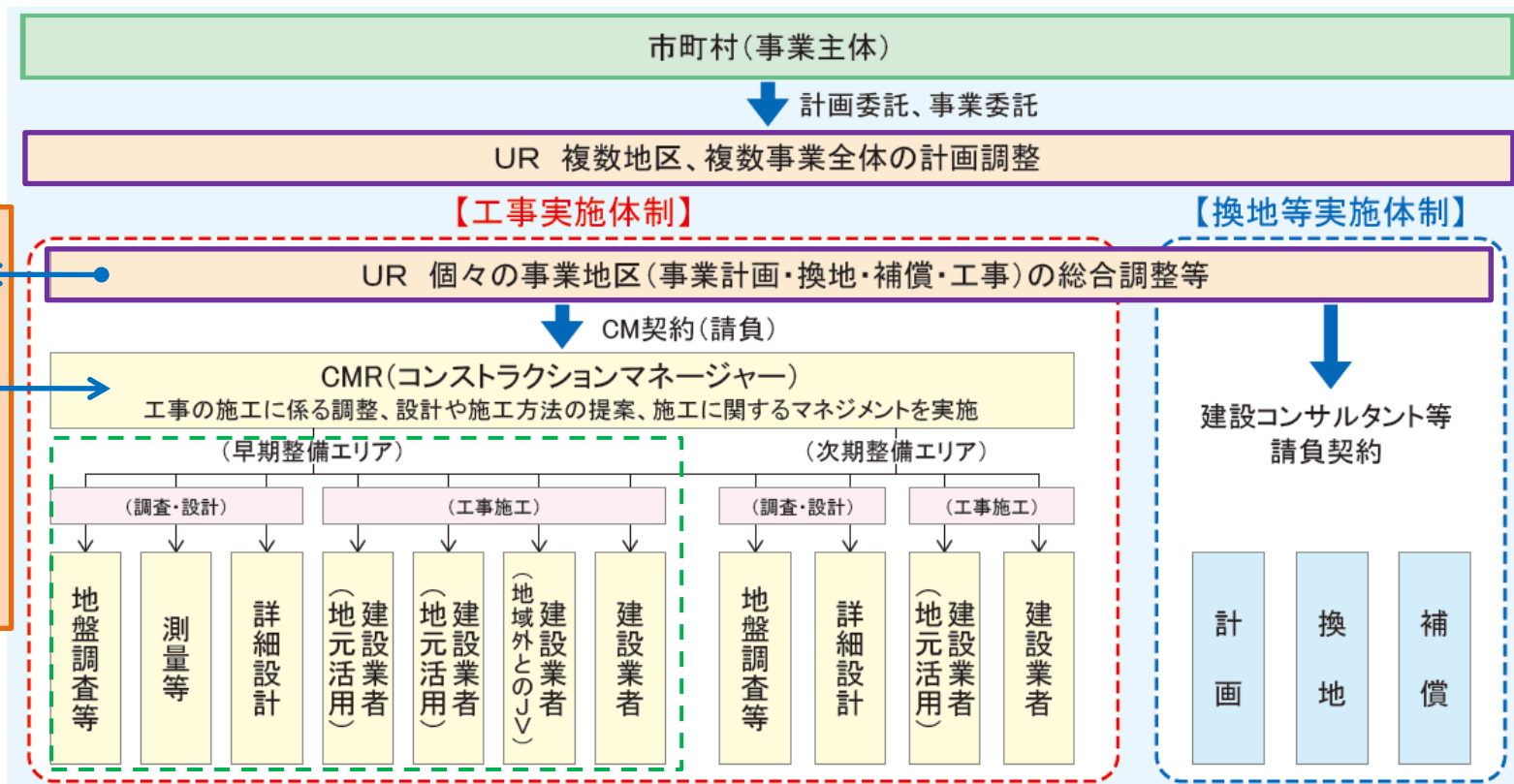
(3)効率的なマンパワー活用

工事調整業務など、5名×15地区=75名相当の発注者業務を外部化

(1) CM(コンストラクションマネジメント)方式による工事発注概要

■ 段階的な工事を大括りし、設計・施工・マネジメントをまとめて発注

◎発注方式を**迅速・透明化**し、地場産業育成にも寄与する**新たな発注システム(CM方式)**をURが**先導的に導入**



発注者業務
を外部化

(工事発注事務
工事施行調整等)

15地区で

約75名分相当の
マンパワー確保

新たなシステム
(例)

- ★プロポーザル方式・事前の施工協議の導入により民間ノウハウ早期活用
- ★コスト(業務原価) & フィー方式による契約の導入による受注者リスク軽減
- ★オーブンブック方式(受注者の支払情報を開示)の導入による契約の透明化
- ★地元業者が下請けに参入できるよう、URが審査

(2) CM方式による工事発注の効果

段階的な大規模工事の課題 (事業遅延の要因)

- ① 全体工事量が決まらない
(段階発注、受注者リスク)
- ② 職人・資材・重機の確保難
- ③ 大規模土工事の輻輳
- ④ 地元参入

CM方式：段階的な工事を大括りし、設計・施工・マネジメントをまとめて発注

- ① **大括り化**により、**契約手続きの簡素化・期間短縮**
コスト&フィー方式で資材高騰等の受注者リスク軽減
- ② 全国から**職人・資材・重機を早期確保**(関東・関西等)
- ③ **民間ノウハウ活用**による**工期短縮**(大量土砂搬出)
- ④ オープンブック方式により、**透明性と地元参入確保**



◎導入の効果(東松島市野蒜地区)

